

第3学年英語科学習指導案

平成18年12月7日(木)

4校時3年A組教室

指導者 T・S

1. 題材名 A Vulture and A Child (Lesson7)

2. 指導計画 (9時間)

ねらい	主な学習活動	主な評価の観点	時間
want 人 to の文法を理解する。	・ want 人 to の文法を用いた文を読み取る。(LESSON7)	・ want 人 to の文法を用いた文を理解できたか。【理解の能力】	1
間接疑問文を理解する。	・ 間接疑問文を用いた文を読み取る。(LESSON7)	・ 間接疑問文を用いた文章を読み取ることができたか。【理解の能力】	1
前置修飾を理解する。	・ 前置修飾を用いた文を読み取る。(LESSON7)	・ 前置修飾を用いた文章を読み取ることができたか。【理解の能力】	1
・ ディベートの仕方を理解する。 ・ 本文を表現をつけて読むことができる。	・ 本文を参考に、ディベートの仕方について学ぶ。また、物事には複数の見方・価値があることを知る。 ・ ペアで本文を役割読みする。	・ I see your point. や In my opinion などのディベートで用いられる表現を理解できたか。【言語や文化の知識理解】 ・ 本文をイントネーションやアクセントに気をつけて読むことができたか。【表現の能力】	1
Japan is a good country. について、グループでディベートする。(4人対4人)	・ 自分たちの意見を考える。	・ 自分の意見を述べることができたか【表現の能力】	1
	・ グループ対抗でディベートする。	・ 他チームの意見に反論したり、他チームからの質問に適切に答えたりすることができたか。また、ディベートの内容を聞き取ることができたか。【理解の能力】 ・ ディベートに積極的に参加しているか【関心意欲態度】	1
各テーマについてペアでディベートする。(2人対2人)	・ 自分たちの意見を考える。 ・ 予想される意見に対するの回答を考える	・ 自分の意見を述べることができたか【表現の能力】	1
	・ ペア対抗でディベートする。	・ 他ペアの意見に反論したり、他ペアからの質問に適切に答えたりすることができたか。また、ディベートを聞き取ることができたか。 【理解の能力】 ・ ディベートに積極的に参加しているか【関心意欲態度】	1 本時

<p>各テーマについて個人対抗でディスカッションする。 (1人対1人対1人対1人)</p>	<p>・個人対抗でディスカッションする。</p>	<p>・自分の意見を述べることができたか【表現の能力】</p> <p>・他ペアの意見に反論したり、他ペアからの質問に適切に答えたりすることができたか。また、ディベートを聞き取ることができたか。</p> <p>【理解の能力】</p> <p>・ディベートに積極的に参加しているか【関心意欲態度】</p>	<p>1</p>
---	--------------------------	---	----------

3. 指導にあたって

本単元では、Kevin Carter が撮った「A Vulture and a child」(ハゲワシと少女)という有名な写真を通して、スーダンの内戦による餓死と子どもの状況について考える。また、Carter の取った行動については、人道と報道のあり方を考えることができ、物事には複数の見方や価値があるということを知ることができる。そこで、生徒にはディベートを経験させ、複数の見方で物事を見ることができるようしていきたい。そのための手段として、ディベートの各テーマにおいて、どの派につくのかはくじ引きで決めている。

また、本単元では in my opinion や I see your point. など、ディベートで使われる表現が多く用いられている。今回を機に、自分の意見をはっきりと言えることができ、相手の意見に対しても反応を返すことができるようしていきたい。そのための手段として、始めはグループ対抗(4人対4人)で、次はペア対抗(2人対2人)で、そして最後には個人対抗という、small step でディベートに取り組ませていく。英語に自信のない生徒でも、最後の個人対抗になるまでに、多くの表現に触れ、それを自分のものとして使うことができるようにする。本時までは、意見を考える時間を取るが、次時には考える時間なしで取り組ませたい。

生徒たちは、英語の授業においてペア(リーダーとペア)で学習して3年目となる。ペアはわからないところをすぐに質問でき、リーダーは教えることによって再確認できるので、教師による受動的な活動ではなく、能動的な活動ができる。今回もそのペアで活動していく。

本時では、まず前時で考えた他のペアの意見についての反論や意見を考える。ただ意見を聞いて終わるのではなく、様々な考え方を出すことによって、自分と他との考えに差異があらわれる場面を設け、個と個をつないでいきたい。次にディベートに入る。そして最後の聞いていた人たちからのジャッジでは、どこが良かったのか判断の理由も述べさせ、表現を共有していきたい。

4. 本時の流れ

